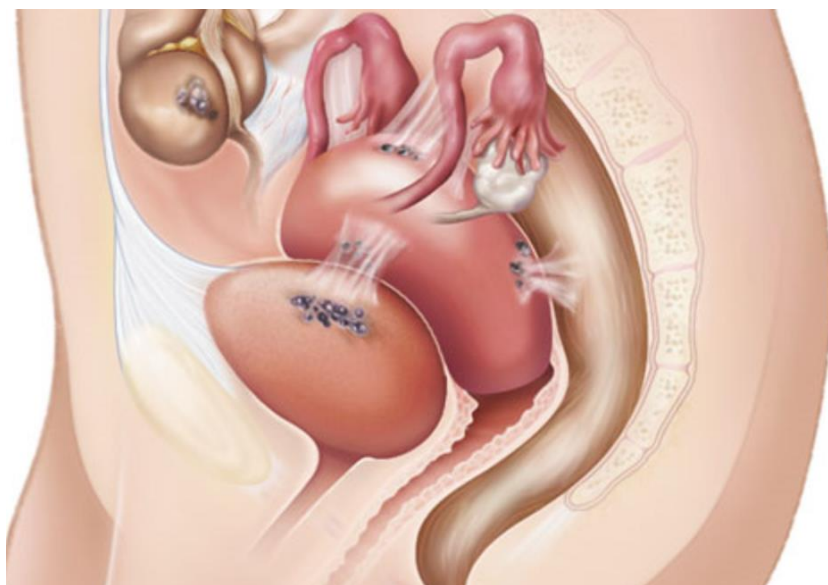


腸管子宮内膜症と大腸内視鏡検査について

腸の中に子宮内膜症ができることがあります、腸管子宮内膜症といいます。すなわち、腸管子宮内膜症は子宮内膜組織が腸の壁で増殖する良性疾患です。

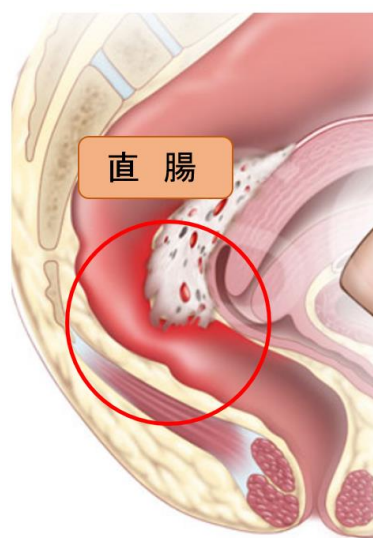


好発部位はS状結腸と直腸, 次いで回盲部に多く見られ、大腸内視鏡検査では、大腸がんとの鑑別が問題になることがあります。

腸管子宮内膜症の症状は腹痛や下血（排便時の出血）、腸閉塞などで、月経周期と関連して症状がみられることがあります。



子宮内膜組織が腸の筋層～漿膜下層内で線維化や平滑筋化生を起こし、さらに月経周期とともに出血や炎症を反復して引き起こすことで、高度な線維化と癒着、狭窄を来すと考えられています。



腸管子宮内膜症による腸管狭窄に対しては外科的切除を要することが多く、近年では腹腔鏡手術を行う施設が増えています。

